

- 12 すると、エレミヤに次のような【主】のことばがあった。
- 13 「イスラエルの神、万軍の【主】はこう言う。行って、ユダの人とエルサレムの住民に言え。
『あなたがたは訓戒を受け入れて、わたしのことばに聞き従おうとしないのか
—【主】のことば—。
- 14 レカブの子ヨナダブが、酒を飲むなと子らに命じた命令は守られた。彼らは先祖の命令に聞き従ったので、今日まで飲んでいない。ところが、わたしがあなたがたにたびたび語っても、あなたがたはわたしに聞き従わなかった。
- 15 わたしはあなたがたに、わたしのしもべであるすべての預言者たちを早くからたびたび遣わして、さあ、それぞれ悪の道から立ち返り、行いを改めよ、ほかの神々を慕ってそれに仕えてはならない、わたしがあなたがたと先祖たちに与えた土地に住め、と言った。それなのに、あなたがたは耳を傾けず、わたしに聞かなかった。
- 16 実に、レカブの子ヨナダブの子らは、先祖が命じた命令を守ってきたが、この民はわたしに聞かなかった。
- 17 それゆえ——イスラエルの神、万軍の神、【主】はこう言われる——見よ。わたしはユダと、エルサレムの全住民に、わたしが彼らについて語ったすべてのわざわいを下す。わたしが彼らに語ったのに、彼らは聞かず、わたしが彼らに呼びかけたのに、彼らは答えなかったからだ。』」
- 18 エレミヤはレカブ人の家の者に言った。「イスラエルの神、万軍の【主】はこう言われる。
『あなたがたは、先祖ヨナダブの命令に聞き従い、そのすべての命令を守り、すべて彼があなたがたに命じたとおりに行った。
- 19 それゆえ——イスラエルの神、万軍の【主】はこう言われる——レカブの子ヨナダブには、わたしの前に立つ人がいつまでも絶えることはない。』」

* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用



希望の光バプテスト教会

2021年 10月 31日 (日)

礼拝メッセージノート

「レカブ人の忠実さに学べ」

エレミヤ書講解-70 エレミヤ書35:1~19 他 小野寺 望 牧師

【 エレミヤ書 35章 】

- 1 ユダの王、ヨシヤの子エホヤキムの時代に、【主】からエレミヤに次のようなことばがあった。
- 2 「レカブ人の家に行って彼らに語り、【主】の宮の一室に連れて来て、彼らに酒を飲ませよ。」
- 3 そこで私は、ハバツィンヤの子エレミヤの子であるヤアザンヤと、その兄弟とすべての息子たち、レカブ人の全家を率いて、
- 4【主】の宮にある、イグダルヤの子、神の人ハナンの子らの部屋に連れて来た。それは首長たちの部屋の隣にあり、入り口を守る者、シャルムの子マアセヤの部屋の上であった。
- 5 私は、レカブ人の家の子らの前に、ぶどう酒を満した壺と杯を出して、「酒を飲みなさい」と言った。
- 6 すると彼らは言った。「私たちはぶどう酒を飲みません。というのは、私たちの先祖レカブの子ヨナダブが私たちに命じて、『あなたがたも、あなたがたの子らも、永久にぶどう酒を飲んでではならない。あなたがたは家を建てたり、種を蒔いたり、ぶどう畑を作ったり、また所有したりしてはならない。
- 7 あなたがたが寄留している地の面に末長く生きるために、一生、天幕に住め』と言ったからです。
- 8 私たちは、私たちの先祖レカブの子ヨナダブが私たちに命じたすべての命令に聞き従ってきました。私たちも、妻も、息子、娘たちも、一生ぶどう酒を飲まず、
- 9 住む家も建てず、ぶどう畑も、畑も、種も持たず、
- 10 天幕に住んできました。私たちは、すべて先祖ヨナダブが私たちに命じたとおりに、従い行ってきました。
- 11 しかし、バビロンの王ネブカドネツアルがこの地に攻め上ったとき、私たちは『さあ、カルデアの軍勢とアラムの軍勢を避けてエルサレムに行こう』と言って、エルサレムに住んだのです。」

(4ページへ続く)

◆はじめに ～御子の似姿（忠実さ）に倣う者へ エペ5：1

1.前回の復習（順序の訂正）

(1) エレミヤ書における7つのアウトラインの確認（30～31章が一番前に来る）

*この箇所は7つの内の ④12部族の将来（30～39章）

- a.レカブ人の忠実さに見習う（35章）
- b.記された巻物と王たちの反応（36章）
- c.イスラエルの回復と希望（30～31、32～33章）
- d.ゼカリヤ王への預言（34章）
- e.ゼデキヤの祈りの要請と逮捕（37章）
- f.獄中からの解放と召し（38章）
- g.エルサレム陥落と忠実な者の運命（39章）

(2) エレミヤ書は必ずしも時系列順ではなく、テーマで区切られている。

①35章を時間順に整理すると、32～34章よりも前の出来事と言える。

◆メッセージのアウトライン紹介とゴール

| 神の教えにとどまる祝福

*このメッセージは、主は忠実な者を愛されることを学ぶものである。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

I レカブ人とは（1～11節）

1.ハマテの子孫

(1) ケ二人の子孫：先祖ハマテからケ二人が出ている。（1歴2：35）

- ①ケ二人の血を引くのがレカブで、レカブ人の祖である。
- ②このレカブの子ヨナダブは、宗教的に純粋で、偶像礼拝を嫌った。
- ③彼は北王国のエフーと共にバアル礼拝の根絶に努めた（2列10：15～27）

(2) ヨナダブの誓いと命令

- ①ヨナダブは都市生活をしていると世俗化し、偶像礼拝に陥りやすいと感じたのか、子孫に一つの近いを守るように命じた。
- ②内容：a.ぶどう酒を飲まない、b.家を建てない、c.種をまかない、d.ぶどう畑を作らず、また所有しないこと、e.一生涯天幕生活を送ること。

(3) 命令の理由：自らのアイデンティティーと宗教的純潔を守るため。

*そのようにして、イスラエルの民の中の在留異邦人として歩んだ。

2.レカブ人へのチャレンジ

(1) 神はエレミヤを彼らを神殿の一室に連れて行き、ぶどう酒を飲ませるように命じる。

- ①目的：レカブ人の忠実さを試し、イスラエルの前に示すため。
（誓いを破らせるためではない）
- ②自分たちは先祖レカブの子ヨナダブの命令に従い、誓いを守ってきた。
- ③彼らは250年にわたり、この生活を続けてきた。

II レカブ人からの教訓（12～16節）

1.ユダの民とレカブ人の比較

(1) レカブ人を試した理由

- ①ユダの人とエルサレムの住民に次のように語れ（13節）…彼らへの教育
- ②約束の地に住む民の比較（14～16節）
 - a.レカブ人たちは今日まで先祖の命令を守り、酒を飲まなかった。
 - b.イスラエル人たちは、預言者が語り続けた神のことばに従わなかった。
- ③強調点は「先祖や指導者の教えを守り、とどまること」（忠実さ）

(2) 解釈上の注意：レカブ人は決して神の民（啓示の民）ではない。

- ①神は彼らの遊牧生活を推奨しているのではない。
 - *イスラエル人に命じた生活は、家を建て、ぶどう畑を造り、定住すること。
 - *イスラエル人は土地の主であるのに対し、彼らは在留異邦人に過ぎない。
- ②この誓いは先祖が自主的に立てたものであり、神からの律法ではない。
 - *神は彼らがイスラエルの中で【主】を知り、とどまったことを喜ばれた。
 - *異邦人はこの地でイスラエル共同体（律法に従う）において祝福を味わった。
 - *異邦人が、信仰によってイスラエル（契約の民）になったのではない。

2.結論：神はイスラエル人の不信仰と不忠実を悲しみ、指導するために異邦人を模範として用いた。

III さばきと祝福（17～19節）

1.神の民に対するさばき（17節）

- (1) さばきの対象：ユダとエルサレムの全住民に下る。
- (2) さばきの内容：既に預言者たちを通して何度も伝えられたこと。
- (3) さばきの理由：彼らが神の声に回答しなかったこと。

2.レカブ人への祝福（18～19節）

- (1) レカブ人は永遠に途絶えることがない（今日もどこかに子孫がいる）
- (2) 「わたしの前に立つ」とは祭司職を意味する。
 - ①千年王国の祭司の中には異邦人もいる（イザ66：18～21）
 - *ユダヤの口伝承『ミシュナ』にも「ヨナダブの子孫が神殿の祭壇で燃やす薪を持って来る人である」という記録がある。

◆まとめ：神の教えにとどまる祝福

1.詩15：4 ダビデによる歌で、神にとどまる生活と愚か者の比較。

- ①エルサレムに契約の箱を移す頃（2サム6章）の出来事。
- ②神がとどまる所（オベデ・エドムの家）に、祝福が与えられた。
- ③ことばと行動に忠実であれ。父の性質を受けよ。エペ5：1

相応しくない私たちに代わり、必要はすべて主イエスがしてくださった。